2024年度第１回ファイナンシャル・プランニング技能検定１級実技試験

Part Ⅰ（2024年６月８日）　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

●設　例●

Ａさんは、Ｘ株式会社（非上場会社・建設業）の代表取締役社長であったが、先月病気により、71歳で急逝した。地方都市に所在するＸ社は、Ａさんが40年前に設立した会社である。バブル崩壊後は経営状況の厳しい時期が続いたが、2000年以降、業績は堅調に推移している。Ｘ社の余剰資金は３億円以上ある。

【事業承継について】

長男Ｃさん（42歳）は、１年前に取締役に就任し、実質的に経営を担ってきた。その経営能力は非常に高く、後継者としての資質に問題はない。妻Ｂさん（68歳）は、長年、取締役として人事・総務の管理部門を担当し、Ａさんを補佐してきた。引き続き、取締役として次期社長に就任する長男Ｃさんをサポートしていきたいと考えている。

Ａさんの相続開始が突然であったため、Ｘ社株式の移転が進んでおらず、自社株式の各種対策を行っていなかった。妻Ｂさんおよび長男Ｃさんは、Ｘ社株式をどのように承継（遺産分割）するべきか、悩んでいる。

【資産承継について】

Ａさんは、遺言書を準備していなかった。妻Ｂさんが公務員の二男Ｄさん（38歳）に意向を尋ねたところ、二男Ｄさんから「親父が急死して、母さんや兄貴が大変なことは理解している。俺はＸ社の経営に参画することはないし、不動産を欲しいとも思わない。だけど、息子として親父の財産の一部をもらう権利はあると思っている」と言われた。長男Ｃさんと二男Ｄさんの関係は良好であるものの、妻Ｂさんは、兄弟間で相続財産の偏りが生じることに一抹の不安を感じている。

なお、Ａさんは自社ビル（３階建て、延べ面積500㎡）を所有し、各階で区分所有登記していた。１階はＸ社に賃貸し、２階は長男Ｃさん家族、３階は妻Ｂさんが居住している。

【Ａさんの相続財産の概要】（相続税評価額、土地は小規模宅地等の評価減適用前）

１．現預金	：	9,000万円
２．死亡退職金	：	5,000万円（妻Ｂさんに支給）
３．Ｘ社株式	：	３億2,000万円
４．自宅兼Ｘ社本社ビル		
①土地（500㎡）	：	8,000万円（敷地利用権の設定なし）
②建物（１階部分、250㎡）	：	3,500万円（区分所有、共用部分あり）
（２階部分、125㎡）	：	1,750万円（区分所有、共用部分あり）
（３階部分、125㎡）	：	1,750万円（区分所有、共用部分あり）
５．Ｘ社資材置き場（400㎡）	：	6,000万円（雑種地、構築物等なし）
合計	：	６億7,000万円

※Ａさんの相続に係る相続税額は、約２億円（配偶者の税額軽減・小規模宅地等の評価減適用前）と見積もられている。

【Ｘ社の概要】

資本金：1,000万円　　会社規模：大会社　　従業員数：80人
完成工事高：22億円　　経常利益：5,000万円　　純資産：10億円
株主構成（発行済株式総数10万株）：Ａさん80%、妻Ｂさん10%、長男Ｃさん10%
株式の相続税評価額：類似業種比準価額4,000円／株、純資産価額7,000円／株

（注）設例に関し、詳細な計算を行う必要はない。

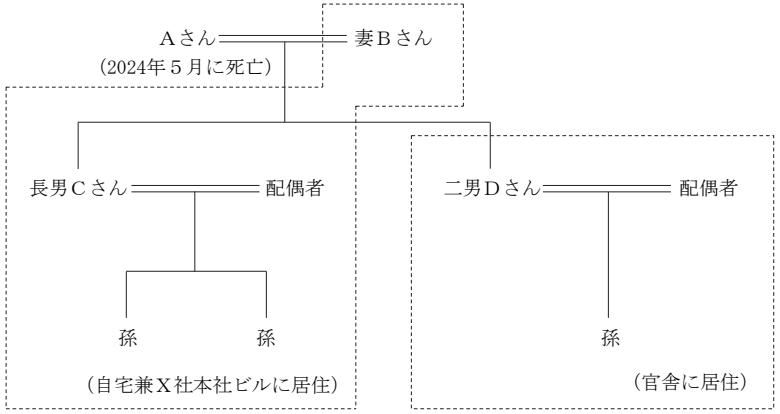
検討のポイント

●設例の顧客の相談内容および問題点として、どのようなことが考えられるか。
●それらの相談内容および問題点を解決するために、どのような提案・方策が考えられるか。
●それらの方策（解決策）のなかで、何を顧客に提案するか。その理由・留意点は何か。
●ＦＰと職業倫理について、どのようなことが考えられるか。

【Ａさんの家族構成（法定相続人）】

妻Ｂさん　（68歳）：Ｘ社の取締役。自宅兼Ｘ社本社ビルの３階に居住している。
長男Ｃさん（42歳）：Ｘ社の取締役。妻と２人の子がおり、自宅兼Ｘ社本社ビルの２階に居住している。
二男Ｄさん（38歳）：公務員。妻と子の３人で官舎に居住している。

【親族関係図】



※Ａさんと妻Ｂさんは自宅兼Ｘ社本社ビルの３階で暮らし、長男Ｃさん家族は自宅兼Ｘ社本社ビルの２階で暮らしていた。
※Ａさんの相続開始後、引き続き、妻Ｂさんは自宅兼Ｘ社本社ビルの３階で暮らし、長男Ｃさん家族は自宅兼Ｘ社本社ビルの２階で暮らしている。

（メモ余白）